

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通:造血器腫瘍に携わる医療者養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師（血液内科・小児科以外）、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、造血細胞移植コーディネーター、歯科衛生士、理学療法士など						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	①造血器腫瘍の病態と治療原理を理解し、多職種と連携して適切な医療を提供できる人材 ②造血器腫瘍に対する治療の有害事象・合併症の病態、頻度、管理法の知識を有し、それを現場で応用できる人材 ③治療および治療後の身体的・精神的サポート、晩期合併症管理と長期フォローアップ、社会・就労支援まで全人的医療が提供できる人材						
修了要件・履修方法	所定の講義・実習を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	①造血器腫瘍の診断・病態、②骨髄性腫瘍、③リンパ性腫瘍、④化学療法・分子標的薬、⑤細胞療法（造血幹細胞移植、CAR-T療法）、⑥有害事象・合併症対策、⑦精神的サポート、⑧身体的サポート、⑨口腔支持療法・栄養管理、⑩晩期合併症（含む妊孕性）・長期フォローアップ						
がんに関する専門資格との連携	特定の資格との認定施設としての連携はない。ただし、コース修了後、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、臨床栄養代謝専門療法士（がん専門療法士：日本臨床栄養代謝学会）取得は想定される。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	造血器腫瘍の治療は殺細胞性治療薬に加えて、早期から分子標的薬、造血幹細胞移植などが導入され、予後が大幅に改善している。その診療において多職種連携が不可欠で、血液内科・小児科の造血器腫瘍専門医以外の医師、歯科医師、看護師、薬剤師など多職種が連携して、チーム医療を実践することで患者は質の高い治療の恩恵を享受することができる。本コースは造血器腫瘍の診断・病態、疾患各論、新規治療法を含めた治療法の実際、有害事象・合併症対策に加えて、身体的・精神的サポート、口腔支持療法、二次がんや妊孕性などの晩期合併症、社会復帰や就労支援を含めた長期フォローアップまでを網羅的に学ぶことが特徴である。実習も取り入れることで知識に留まらず、自身の専門性を最大限に発揮し、全人的な医療が提供できる人材を育成する。現場で診療に従事している医療者を対象とするため、可能な範囲で遠隔講義やe-learningを用いることで受講者の利便性に配慮した受講環境を整備する。						
指導体制	東京医科歯科大学および連携大学の血液専門医が中心となり、学内外の各分野の専門家による講義・実習による指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	大学病院、地域の中核病院、がん拠点病院にて多職種と連携して、個々の造血器腫瘍患者に寄り添い、自身の専門職のスキルを最大限に発揮して高いレベルの医療とケアが提供できる専門職。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	10	20	20	20	20	20	110
受入目標人数設定の考え方・根拠	連携校全体の造血器腫瘍診療科の多職種の受講が20人以上見込まれるため、受入れ目標人数を20人/年と設定。初年度は年度途中の開講となるため10人/年を目標とした。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0